

早稲田大学 社会科学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分（現代文1問 現古漢融合1問）
特徴・その他	すべて選択式の問題。（一）は評論問題だが、（二）で現古漢融合型の問題が出題された。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
（一）	柏木 博 『「しきり」の文化論』	個人主義の拡大と、その問題点についての評論。本文も読みやすく、設問も素直な問題が多い。問二～五の空欄補充問題を、いかに手早く正確に解くかが勝負を分ける一つのポイントになる。傍線部説明問題では問九がやや迷うところであるが、消去法でクリアすることができる。（一）については、ほぼ満点が狙える。	標準 (やや易)
（二）	大岡 信の文章	現古漢融合型であり、昨年 of 現古融合型とは異なるが、本文も設問も昨年よりアッサリしているうえに、設問数も減ったので、平易化したといえよう。問十二、十六十九がやや迷いやすいが、本文の精読によりクリアすることが可能である。現古漢融合型という形式に動揺してはいけない。あくまで現代文の一種と考えた方がよい。（二）については、八割以上の得点を狙うべきである。	標準

〔総合コメント〕

<p>（一）は、オーソドックスな問題であり、受験生の実力がそのまま反映される良問である。今までの社会科学部の傾向に沿った問題といえる。</p> <p>（二）は、現古漢融合型という形式に戸惑った受験生もいたことと思うが、設問に素直に対応していけばよいのであり、一人で本文と無駄な格闘をしないようにした方がよい。本文の要約やまとめを書くといった、自己満足的な作業に気が向き過ぎないようにしたいものである。</p>
--